

【旭川高専】【北海道地区4高専半導体人材育成連携推進室】

利尻島にて、北海道主催の中学生・高校生向けの半導体出前講義で本校教員が講師を務めました

10月18日（金）、利尻富士町立鬼脇中学校、北海道利尻高等学校でそれぞれ開催された出前型半導体体験講座、半導体出前講義（ともに北海道経済部産業振興局次世代半導体戦略室主催）で、本校の松原英一准教授が講師を務めました。利尻富士町立鬼脇中学校では2・3年生あわせて8名がシリコン単結晶ウェーハの電気抵抗測定、顕微鏡によるプロセス済みシリコンウェーハの観察、マイコンボード（micro:bit）を用いたプログラム体験からなる実習を行ったほか、半導体についての説明を受けました。

加工済みシリコンウェーハの顕微鏡観察では、肉眼からは想像がつかない微細な回路パターンができていることに感嘆の声があがったほか、micro:bitのプログラミングによる操作では、光（LED）、音（メロディ）、パズルなど、それぞれが思い思いに高度な仕掛けをプログラミングし、時間を忘れて楽しんでいました。

北海道利尻高等学校では、1年生16名が、半導体とはどういうものなのかを加工前後のシリコンウェーハの観察や抵抗測定も交えながら学び、半導体が私たちの暮らしとどのように関係するのかについて知ったほか、AIと半導体の密接な関係、日本と世界における半導体産業の現状、これからの北海道と半導体産業、特に若者に期待が集まっていることなどについての話を、興味深く聞き入っていました。

<プログラミングを体験する利尻富士町立鬼脇中学校の生徒たち>



<半導体と暮らしの関係について話を聞く北海道利尻高等学校の生徒たち>

